BINE SOR 2021 Vol. 36 悲步步者 4 直然是助您見證を見聞らずお等 国施院を訪ねて 記録写真家、柿内未央



### 自然豊かな見沼を見晴らすお寺 『藏院を訪ねて

1年中あちこちで新築住宅が建設されています。やどかりの里の法人本部がある見沼区中川も、ここ数年でかなりの家が建ちました。家が建つ前は何があったか? どんな家があっただろう?……見慣れていたはずの景色なのに、そこに何があったのか思い出せない。そんなことはないでしょうか。

1982年、大宮駅に新幹線が開通すると、駅周辺は開発が始まり、中川地区にも大宮駅から循環バスが通るようになります。2000年にはさいたま新都心駅ができ、商業施設が年々拡大、中川は大宮駅と新都心駅の二駅を利用できるエリアとして、子育て世帯などが多く住むようになりました。かつては「中川の軽井沢」と言われたほど緑の多いエリアでしたが、木々は住宅に代わり、魚屋・肉屋・八百屋といった店は駐車場に、イベントの時には大量のたまごを仕入れに向かった養鶏場も、今はアパートになってしまいました。

約3,500世帯,7,900人が住むこの中川の地域は、かつてはたくさんの農家があり、米・麦・さつまいもなどほとんどの農家が作っていたそうです。特に小麦が多く、埼玉では小麦栽培が盛んで、うどん文化といわれる由縁がそこにはありました。どの農家の家にも牛や馬、やぎなどが飼われ、庭先には収穫した作物を乾燥させるためのスペース、牛や馬のための小屋、農機具を収める納屋と、広い敷地を所有していました。中川の地域には地形に由来するもの、位置や地名に関係するものなどたくさんの屋号が残っています。屋号を辿っていけば、この土地の歴史を知る手掛かりになるかもしれません。

時代の移り変わりとともに景色を変えてしまっても、その土地がもつ歴史を 知ると、その時代にタイムスリップしたかのような気持ちになります。それが まち歩きの密かな楽しみでもあるのです。

### さいたま市指定天然記念物の「シダレザクラ|「大銀杏|

今回,中川の地を知るために訪れたのは,見沼区中川 540 の1 番地,慈眼山 <sup>えんぞういん</sup> 圓藏院です.真言宗智山派の歴史あるこのお寺を,住職の石田秀元さんに案内 していただきました.





大銀杏に引き寄せられて

天然記念物のシダレザクラ

門から一歩足を踏み入れると、まわりの騒々しい空気とはまったく違う静かな時が流れていました。 六地蔵さんに迎えられて門をくぐれば、緑豊かな木々が道案内をするかのように右から枝を垂らし、左手には季節ごとの花々が目を楽しませてくれます。 その先にあるのが、さいたま市の天然記念物に指定された樹齢 600 年を超える大銀杏です。「この樹はここに何百年と立って、どん

な景色を見てきたのだろう」……思わずこの大樹からパワーをもらいたくなりました。まさにパワースポット.

大銀杏を過ぎた地蔵堂の前に、こちらも市の天然 記念物に指定されたシダレザクラがありました. 樹 齢 250 年を超えたその存在感には圧倒されます.

この地に生き続けてきた木々や花々に囲まれたこの空間は、多くの人の癒しの場にもなっています.かつてはこの銀杏の樹を囲んで盆踊りが行われ、子どもたちの林間学校としても使われていたそうです.目を閉じれば、子どもたちのにぎやかな声が聞こえてくるようです.今ではお参りに来る人.法



本堂を前に



竹林を見上げて

要に来る人だけでなく、地元の学校の茶道部学生がたてる野点や、子育て世代向けの「お寺でYOGA」、御詠歌、写経会、法話会など、地域の人たちの交流の場となっています。

#### 歴史を感じ、自然に思いを馳せる時間と空間

地蔵堂の前には大きな金木犀の樹があります. 秋にはきれいなオレンジの花をつけ、その香りを放つのです。紅葉の枝の下をくぐりながら先に進むと、竹林が広がり、春にはたけのこがたくさん芽を出します。地面から芽を出そうとしているものもあれば、あっという間に天に届きそうなほど伸びていくものもあり、その成長を見るのも楽しみの1つ。強く地に根を張り続ける竹林は、その強さでこの土地を守ってきたのでしょう

この辺りは雑木林で、野ウサギやたぬきがいて、猟師が山鳩をうったりしていたそうです。近くに流れる芝川にはうなぎや鯉もいて、自然豊かな環境でした。種々雑多にある雑木は、薪や炭の材料となり、貴重な燃料にもなっていました。石油や石炭が主要なエネルギーになってからは需要がなくなり、人の手が入らなくなった雑木林は放置され、住宅開発のために伐採されていきます。人々の暮らしを支えていた雑木林、子どもたちが探検したり基地をつくったりした里山やどんぐりは、いつしか姿を消してしまいました。

「昔は子どもはどの家にも出入り自由な文化があって、人を思いやれる余裕もありました。今は所狭しと家が立ち並び、窓を開けると隣家の窓が目の前にある、そんな人が住む場所に生まれ変わりました。人は増えたものの、核家族化や孤立化が進み、かつては言葉にする必要のなかった『癒し』や『絆』をみんなが口にするようになりました」と石田さんは語ります。圓藏院は長年この地で、移り変わる景色を見てきました。そして今は、地域の人の交流の場をつくり、癒しの空間を提供しているのです。

「四季折々の花咲く歴史のあるお寺で、安らかな心を得る」「365日ご来院の みなさまに門を開いています」この言葉に、再び足を運びたくなります。

### 自然と向き合い, 自然と共に生きる

圓藏院を入る手前に、大きなけやきの樹があります. ここにはフクロウが住んでいましたが、カラスが増え たことで姿を見せなくなったそうです. フクロウがま たこの樹に戻ってくること、芝川にうなぎや鯉が戻っ てくること……人の暮らしのために失ってしまった自 然を、もう一度取り戻すことはできないのでしょうか. 長くこの地に根を張る樹々と、変わることない青い空 を見上げながら、ふとそんなことを考えてしまいまし

圓藏院には、散策やお参りに来る人だけでなく、バイクのツーリングやサイクリングで立ち寄る人の姿もあります。赤く色づいた紅葉を背景に自慢の自転車を



ケヤキに見守られ

写真に収める人の姿、大銀杏の下で椅子に座り一息つく人、一面に広がった銀杏を拾う人、健康を願い手を合わせる人……門を一歩入るといろいろな出会いがあります。ここに流れる時間、空間の中で、この土地、木々や花々が語る歴史を感じながら、私たちにできる人と自然の共生のあり方を考えてみてはどうでしょうか。

(記 大澤 美紀)



赤く色づく院内



見沼田んぼから見るさいたま新都心

## お店じゃない屋号



### 並木せつ子

昔から同じ名字が多い地域では、商店でなくても屋号が使われてきました. たとえば家のそばにある木の名前から「カキノキ」、地理的な位置を示す「ニシンチ(西の家)」、先祖の名前にちなんだ「ヤサブロさん」、昔営んでいた職業から「カゴヤ(籠屋)」、分家を表す「ジンヤ(新家)」などです.

千葉県の御宿に近い岩和田に,漁師なのにコンニャク屋という屋号で呼ばれる家があります。なぜコンニャク屋なのか?『コンニャク屋漂流記』(星野博美著)は、まずこの疑問から始まります。著者の祖父はこのコンニャク屋出身で、ずっと町工場を営んできたのに漁師の風貌を持つ人でした。著者は疑問をときあかすため、祖父が書き残した文章を読み、岩和田の親戚から話を聞きだします。

由来は「昔コンニャク売ってたんだって」というものでしたが、言い伝えによれば、その先祖は紀州(和歌山県)からやってきた兄弟だったとか。兄弟のうち1人が「コンニャク屋」で、もう1人は名前から「きゅうじどん」という屋号で呼ばれてきたそうです。紀州のどこから、どういう人が、どんな理由でやって来たのだろう?と、千葉から和歌山へ、コンニャク屋のルーツ探しの旅は広がっていきます。

歌舞伎の世界にもそれぞれの一門に屋号があって、芸や数々の約束事とともに長く受け継がれてきました。松本白鸚の妻が書いた『高麗屋の女房』(藤間紀子著)、成駒屋・中村芝翫の妻の『銀婚式』(三田寛子著)、市川団十郎の妻の『成田屋のおくりもの』(堀越希実子著)、萬屋・中村獅童の母の『言わぬが花』(小川陽子著)を読むと、家のしきたりのもとに家庭を切り盛りし、役者の夫や息子を盛り立てる「○○屋の嫁」の姿が浮かび上がってきます。全く別の世界から梨園に嫁いだ女性たちの健闘ぶりと、舞台とは違う歌舞伎の世界をかいま見ることができる本です。

①『コンニャク屋漂流記』文藝春秋 2011 年, ②『高麗屋の女房』毎日新聞社 1997 年, ③『銀婚式』中央公論新社 2016 年, ④『成田屋のおくりもの』マガジンハウス 2018 年, ⑤『言わぬが花』主婦と生活社 2006 年



よみさんぽ編集委員のつぶやき

### 想像と現実と

コロナ禍の生活,皆さんはどうお過ごしだろうか.外出も減り,人と会うことも,ちょっとした世間話をすることも少なくなった.気が付けば2020年も残りわずか.この何か月があまり記憶に残っていないのは,自分だけではないと思う.

私は30代独身女性である。時の流れというのは無情なもので、こちらの心の準備ができていなくとも時間は過ぎ去っていく。このままでは明日にでも40代を迎えていそう……体感的にはそんな速さだ。

小学生の頃は、20代半ばには結婚し、30代ともなれば何人かの子どもと過ごしているだろうと漠然と思っていた。想像していた未来とははるかに異なる現実だが、今では独身生活をそれなりに楽しく満喫している(そう思えるまではいろいろあったが)。

ただ周りはそうもいかないようで、何年か前は「結婚だけがすべてではない」と言っていた親戚からも、「知り合いの寺の息子を紹介することもできる(から地元に帰ってこい)」と言われ、無言の圧を感じ始めている。地元から足が遠のくのは、コロナだけが理由ではないかもしれない……

こんな私の人生と同列に語るのは失礼だが、「自分の人生、こんなはずではなかった」と思う人も世の中には少なくないと思う。障害のある人とともに働く中で、精神疾患を発症したことで就学や就職、恋愛や結婚に困難が生じ、「まさか自分が病気になるなんて」「こんなはずでは……」という戸惑いの声も耳にする。その渦中で悩みながらも、今を懸命に生きている人にも出会う。

以前、精神障害のある人のご家族にお話を伺った時のことだ.

「子どもが病気を発症し、『昨日の続き』という意味での『今日』ではなくなってしまった。本人も家族もまさに青天の霹靂。それでも今ある『今日』を生きていてくれれば、何も望むことはない」、その言葉が胸に残っている。

思い描いていた未来とは違っても、今日という日を納得して生きていられる 自分でありたい. (記 萩崎 千鶴)

# あの街 俊一郎が行く・30

### 正月

### 静寂

今から30年くらい前。まだコンビニエンスストアが珍しかった頃、私が生まれ育った東京の下町では、年末の喧騒の中、買い出しを済ませて迎えるお正月はとても静かでした。追い立てられるように過ごし、その年最後の太陽を見送った後は、なんだか覚悟を決めたような気持ちで新年を迎えるのです。それから初売りを迎えるまでの清々しい空気が、堪らなく好きでした。

### 課題

建築学生にとって、正月とは休み明けの課題の提出に向けてひたすら徹夜をするという過ごし方でした。クリスマスソングも耳に入らずに、冬休み前の図書館で参考としたい10冊の書籍を選び、画材店で製図用品や模型材料を集めているうちに、あっと言う間に大晦日になる。おおよその構想は日々の授業の中で詰めていますが、辻褄の合わない部分も……それらの構想をまとめながら、図面や模型に表現していく作業は2日から始まります。はじめのうちは脇見をしつつゆっくりと進めている作業も、だんだんと捗らなくなって昼夜逆転。休み明けを迎える頃には、徹夜続きに変わってきます。そして、新春の透き通っ



た日差しは、疲れた目には痛いぐらいに感じるのです. 前もってやっておけばいいものの、この徹夜の日々が不合理な充実感を与えてくれました.

### 遊び倒した忘年会

就職してからは、小さな事務所だったけれど明け方まで続く忘年会を楽しみました。一次会は、目の前で焼いてくれる鉄板焼き。目の前で焼かれるサーロインを眺めながら、1年間の努力が報われるような気持ちでした。

### とまつりしゅんいちろう都祭俊一郎

1975 年生まれ、生まれも育ちも、東京の下町、 エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計(新築及び改修) を複数行う. (写真 新 良太)



そして、来年に向けての抱負を語り合います。二次会は、安い居酒屋。スタッフ同士の他愛のない会話が続きますが、段々と愚痴も入ってきます。三次会は、カラオケ店。流行りの歌を歌いたいと曲名を探すものの、なかなか見つけられない。最後は、始発を待つためにファミレスに、この行程を全てノンアルコールで付き合うのです。同僚がいたからこその騒ぎでしたが、決して仕事のストレスが原因ではありません。

### 暴走

たまたま日取りがよく、仕事の段取りがうまくいったある年の年末年始. いろいろと計画して出かけました. 夢中になって遊び、1週間で4,000キロも車で移動する勢いでした. 特に休みの最後の2日間は、朝7時に東京を出発して栃木県のサーキットに行き、夜には富士宮まで行って夜中に帰宅しました.

この年は、休みが終わった2日後に38度の高熱を出し、その後3日間寝込み続けました。

### そして今

自分のお正月の過ごし方を振り返ってみると、休息を取ることが苦手なのがわかります。そういう性分だからこそ、やりきれなかった宿題が残っているくらいのほうがちょうどいい。この文章を年末のうちに終わらせてしまい、途方もなく暇なお正月がやってきます。でも、何か課題をもってきて作業する日々となるでしょう。その話は、いずれまた。



# 

### 人とのつながりの豊かさを共有できる機会を 地域で孤立する子ども・若者のために

昨今の若者を取り巻く状況として、貧困やひきこもり、不登校、いじめ、中 学や高校中退など、深刻な環境におかれている若者は少なくありません。そん な若者たちの居場所を創ろうと、さいたま市で活動を続けている団体がありま す。

NPO 法人さいたまユースサポートネット(以下,ユースサポート」は,2011年に発足,いじめや不登校などに悩む子どもたちの居場所の提供,学習支援,自立・就労支援の活動を進めています。代表の青砥恭さんは,「私たちの活動は,学校教育の中でこぼれ落ちた生徒たちを支える活動」と語ります。教育からの離脱は、その後の人生に大きな影響を及ぼします。子どもや若者が生き生きと生きる社会を創っていくため、私たちが取り組めることは何か、今回は青砥さんのお話から考えてみたいと思います。

### 日本の若者たちの社会への信頼感は30%以下

青砥さんは1980年以降,子どもたちを取り巻く環境が変わってきたと言います.新自由主義改革は,競争によって社会が成立するという考え方を教育行政にもたらし,教育を産業化,市場化させてしまったと指摘します.結果,教育の格差が生まれ,子どもの貧困が進んでしまいました.今,日本の若者たちの社会への信頼感は30%以下.先進国の中ではとても低い数値です.政府が貧困対策に手をうってこなかったからと,青砥さんは話します.子どもの幸福度も,日本は先進国の中では最低レベルです.このままでは,日本の若者たち

は自分の将来に希望をもてないまま生きていくことになってしまいます.

### 学校でも家庭でもない第三の場所

「私たちの活動のミッションは、地域と人をどうつなぐかということです. 目指すものは地域社会のつながりで、いろんな子どもたちを支えていきたい. 子どもたちが"助けて"と言える場を創ることが大切で、子どもにとっては第三の場所です」.

ユースサポートの活動は、たまり場から始まっています。現在、見沼区で実施しているサッカー教室は、子どもたちにとって"楽しかった"と思える体験を大切にされているそうです。サッカーはあくまでもツール。いつでも誰でも参加でき、そこに行けば親も子も、地域の人とおしゃべりできるし美味しい食事も食べられます。地域にそういった場があることで、学校や家庭だけでなく地域社会で子どもたちを支えていくことを目指しています。

### 人とのつながりの豊かさを共有していく

また、ユースサポートの活動は、多くの大学生やシニアのボランティアが関わっています。たとえば、全区で実施している学習支援教室は、生活保護受給世帯と児童扶養手当全額受給世帯の子どもたちを対象に、安心して学ぶことができる場として運営しています。大学生のボランティアが勉強を教え、本の話をしたり、漢字練習をしたり、中には話を聞いてほしい子もいます。大学生との出会いをきっかけに進学を決めるなど、ロールモデルにもなっているそうです

学びは、教科書の内容を勉強することだけではありません。いろいろな世代の人たちと出会い、楽しく学ぶことを通して子どもたちが未来を考え、人生を選択していく力を培っていくことにつながると感じます。「居場所づくりは、誰でも辿り着けるようにします。場を共有しながら孤立感をなくしていく。私たちが取り組むことは、地域社会をいかに豊かにするかということです。人とのつながりの豊かさを共有していく場がないと、この社会は豊かになりません」と、青砥さん。

誰でも辿り着ける第三の場所. そこには出会いがあり, 人と人とのつながりの豊かさを感じられる場でもある……, 皆さんはそんな第三の場所を創ってみたいと思いませんか? (記 三石麻友美)

### 芝川ヤギ部ヤギ日誌

### ヤギがつなぐ和・輪・環 ③



2020年11月9日朝,「未来を拓く つなぐ・つくるプロジェクト」のワーキングチームで、芝川小学校に集合しました。小学校にいる2頭のヤギ、楓と桜とヤギ散歩を楽しむためでした。そこへ、ワーキングチームのメンバーでもある、芝川ヤギ部代表の岡野友敬さんがやってきて……

### 桜, 三度目の出産?!

「桜がなんか変だな……もしかしたら子どもが産まれるのかな……」と岡野さん、いつもなら岡野さんの姿を見るとすかさず寄ってくる桜が、この日はあまり動きません。「楓もなんだかおとなしいんだよな……」と2頭の変化に首をかしげます。

とはいえ、お産の確証もなく、散歩に行ってみようと2頭を飼育小屋の外に 出しますが、なんとなく2頭とも足取りが重い様子. 以前、ヤギ散歩に同行し た際の2頭は、嬉しそうに、散歩道も勝手知ったる様子で、自ら先へ先へと進 んでいました. その時と比べると、普段の様子をよく知らない私でも、散歩を 楽しめていないことが分かるほどでした. 校門を出て少し行ったところで、桜 が来た道を戻ろうとしたので、散歩は中止し、桜の様子を見守りました.

時折苦しそうに、小屋の網に頭を寄せ、うつむく桜. お腹も張っているのか、お腹の中で子ヤギが動いているのが分かりました。 岡野さんは芝川ヤギ部のメンバーに「桜、出産の予感」と連絡を入れ、小屋の中に稲わらを敷き詰めます。 出産時に必要となるであろうタオルを差し入れてくれる人や、稲わらを近くの農家にもらいに行く人など、連携もバッチリ.

普段見慣れない大人たち(本プロジェクトワーキングチームメンバー)に見 つめられていたのが恥ずかしかったのか、タイミングがつかめなかったのか、 なかなか出産に至らないまま、一旦解散しました。

#### 桜、出産!!

解散して2時間ほど経ったころ、「産まれました」の一報が入りました。駆け付けると、元気なオスとメスの2頭の子ヤギの姿がありました。桜のいつもと違う鳴き声を聞いた子どもたちが先生にそのことを伝え、先生方が駆け付けた時には出産が始まっており、あっという間に2頭が生まれてきたとのこと。ヤギはとても安産だそうで、3回の出産とも1時間程度で生まれています



### きらきらと目を輝かせる子どもたち

出産したのは子どもたちの下校時間に近かったため、子どもたちはランドセルを背負って飼育小屋に張り付いていました。あちこちで「かわいい~~」「産まれたの?!」「オス、メスどっち?!」などの会話が飛び交い、にぎやかに、目をきらきらと輝かせてヤギの親子を見つめる子どもたちの姿に、そのかわいさだけでなく、生きる力、命の大切さや親子の絆を感じていることが伝わってきました。

生まれた子ヤギのうち、オスはすでに里子に出される先が決まっているそう



です.かわいい双子の子ヤギが見られる期間はわずかですが,乳離れまでのしばらくの間は,芝川小学校周辺を親子で散歩しているヤギたちと出会えるかもしれません.

(記 宗野 文)

12

### あなたらしい毎日を。

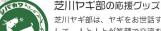
さいたま市内を中心にビルやマンションを管理する会社です。 ご自身のライフスタイルにあった時間でのお仕事があります。







〒330-0842 埼玉県さいたま市大宮区浅間町2-244-1 TEL 0120-156365 (フリーダイヤル)



て発足しました。グッズの売上の一部と応

援チケットの諸経費を抜いた収益は、ヤギさんのお薬や小屋の 手入れなどに使わせていただきます。地域に癒やしを与えてく れるヤギ活動をぜひ応援ください!

芝川ヤギ部応援グッズ好評発売中し





こころの悩み、ちょっと話してみませんか?



### お住いの区の障害者生活支援センターまでご連絡下さい。

見沼区障害者生活支援センターやどかり 電話 048-682-1101 大宮区障害者生活支援センターやどかり 電話 048-795-4720 浦和区障害者生活支援センターやどかり 電話 048-793-6373

そのご家族の地域の相談機関です。

### 「よみさんぽ」を配布するボランティアを募集

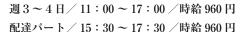
公益社団法人やどかりの里では、障害のある人で分担して、地域の皆さんによ みさんぽをお届けしています。届けられる地域に限りがあり、人手もなかなか足 りません.

お散歩のついでなどに、ご近所に配ってくださるボランティアを募集していま す. 地域や部数はご相談させてください.

連絡先 048-680-1891 (やどかり情報館: 萩﨑まで)

### パートさん大募集!

高齢者向け弁当の調理補助・配送のパートさんを募集しています. 軽自動車でさいたま市内にお弁当をお届けしています。



【お問合わせ】TEL 686-7875 (月~金 8:30~17:30 受付・祝日を除く)

エンジュ 〒 337-0042 さいたま市見沼区南中野 286-1



担当:永瀬

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

# 社会福祉法人鴻沼福祉会

### こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



TEL 048-854-8000 FAX 048-854-3538 さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりにこだわった本格とうふ。 宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。 大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる"小さなぜいたく"を食卓にお届けします。

### きりしきのパン

TEL 048-854-6910 FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を 使用しています。 (一部商品を除く)

職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。





### 弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。 野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

#### 鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注 しています。働くことをとおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

|障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています! 問い合わせ先:048―854―6890 (担当オガワ)

#### 鴻沼福祉会事業所一覧

- ●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL: 048-854-6890 FAX: 048-856-0313
- 《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)
- 《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえでホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ
  - ●なつめホーム(以上、中央区)●のぞみホーム(見沼区)●ひかりホーム(西区)
- 《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢(以上、中央区)
  - ●見沼区障害者生活支援センター来人(見沼区)

### さいたま見沼よみさんぽ

### 作者紹介

### 記録写真家 柿内未央さん(表紙写真)

"人としていかに生きるか"について考えるなかで、平和の基盤は自然との共生きにあると痛感し、埼玉県の明石農園にて自然栽培を学ぶ。

生かされていること、全ての本質が等しくつながり合っていることを感受してから世界が変わり、その一部として生きたいと思うように.

自然とヒト・人と人をむすぶお手伝いがしたく、"自然とヒト"…いのちの記録をメインに活動している。

ホームページ http://tomomusubi.com/

#### 表紙写真によせて

今号の特集を拝読し思い出されたのが尊 敬する映像作家さんの言葉でした.

(ホームページ KISANA LINES https://kisanalines.com/)

「木って, まるでタイムマシンのよう」 「誰かに話しかけられたり, よじ登られたり, いくつもあった戦争だって見て来たのでしょう.

木は、全部を受け止めて静かにそこに立っています。長い長い時を超えて、」と、 やさしい眼差しで寄り添いながら綴られた 言葉.

そして最近,大好きな舞い手さんの撮影をさせていただいたのですが,そこでも "記憶"についての話に…….

祈りである舞と響きあいながら,

自然と 過去と 共に 自然と 過去の おかげさまで わたしたちは いまここに在ること. いま,そしてこれからもずっと すべてと共に在り続けることを, 感じさせていただきました.

願わくば、無数のいのちのおかげさまでいまここにある穏やかな日々がずっと続いていきますように……(柿内未央)

さいたま見沼よみさんぽ 第36号 発行 2021年1月

編集 「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会 〒 337-0026 さいたま市見沼区染谷 1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org https://www.yadokarinosato.org/

発 行 公益社団法人やどかりの里 理事長 増田一世

印刷所 やどかり印刷

今号も「まち歩き」をテーマにした お話をお届けします.

公益社団法人やどかりの里は、この 大宮見沼界隈で障害のある人たちとと もに地域で生きることを目指して活動 を続けています. 私たちは長年この地 域で活動し、地域の皆さんに支えてい ただいてきました.

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。

またこの度,広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」 と改題致しました.

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同